

平成18年度 徳島県田園環境検討委員会（第2回）会議録

日 時：委員会 平成19年3月26日（月）13時30分～16時00分

場 所：鳴門市大津町
徳島県庁10階特別大会議室

出席者：【委員】角野康郎委員長、上月康則副委員長、茨木靖、田村典子、
桑田トシエ、大栗邦子、新居基昭
（敬称略、10名中7名出席）
【県】農山村整備課長、農地整備課長ほか

- 委員会次第：1 開 会
2 開会のあいさつ
3 議事（1）現地視察：経営体育成基盤整備事業 段関地区
（説明者：田代優秋）
（2）農業農村整備事業「環境との調和への配慮」
の実績について
（3）農業農村整備事業新規予定地区の
「環境との調和への配慮」について
5 閉会のあいさつ
6 閉 会

《配布資料》

- 資料1 会議次第
資料2 配席図
資料3 議事（1）（2）（3）資料

- 会議録：1 開 会
2 開会のあいさつ：農山村整備課長からあいさつ
3 議事（1）現地視察：経営体育成基盤整備事業 段関地区

主な質疑・意見等概要

- ・ 農業者の希望の排水路は、維持管理（土砂の取り除き等）の少ないコンクリート3面張りが良いが、カワバタモロコの住むにはいい水路ではない。
- ・ 昔からの土水路やレンコン田の環境は、植物や魚類には好ましい。
- ・ 維持管理の軽減をして農業（レンコン田）を継続的に行っていくことが必要なので、排水路の整備には地元との協議・調整が必要である。
- ・ 地域の環境を守りながら、排水路の整備を検討する必要がある。

議事（2）農業農村整備事業「環境との調和への配慮」の実績について

主な質疑・意見等概要

- ・ モニタリングについてまで、報告を受けたのは初めてであり、いいことである。

- ・ 5番でイノシシの罠を仕掛けるための云々ができなかつたと書いてあるが、そういうことも含めて個表に入れ、何がうまくいかなかったかということも取り扱うのは良いことである。
- ・ 個表の作り方について、調査年月日と、できれば簡単に専門家のコメントを入れてもらうようにするとより充実したものになる。
- ・ モニタリングは、一度うまくいって終わりではなく、予算がない中ではあると思うが、長期間にわたりポイントを絞ってでもいいので、見ていってほしい。
- ・ モニタリングについては、蛙やイモリの脱出スロープやヌマエビの通路の確保などの工事は行われても、蛙やイモリが本当にそこを利用しているということが問題になる。そこまでモニタリングを続けてはじめて実績があがったということになる。
- ・ 現地を見せてもらったが、3面張りだったら工事がしやすいのか。逆に、石を積むよにすると何割かは高くなるということですか？
A：傾向としては工事費は高くなる。平成13年から土地改良法が変わり、環境との調和への配慮を行う必要が生じていることで、事業費が上がった分については、国に申請して予算の確保を行うようにしていきたい。
- ・ 環境配慮については今後、理解されてくると思う。公共事業はやりにくくなってきていると思うが、環境配慮にかかる費用については、理解を求めてもらうようにして、予算化してもらいたい。

議事(3) 農業農村整備事業新規予定地区の
「環境との調和への配慮」について

主な質疑・意見等概要

- ・ 段関地区はいわゆる希少種も多いが、湿地における普通種が、他の地区では乾田化で減っているが、それがごくあたりまえに残っている。希少種でないからといって、無視してはいけない。湿地の環境が残ることで希少種も残る。段関地区では普通種でも、他の地域では減ってきているということがあがる。湿地環境を守ることを考えていただきたい。
- ・ 今後、段関地域の農業はどのようなようになっていくと考えられるか？
A：段関付近は、もともとは大体レンコン田だったが、客土をしてイモ(サツマイモ)等に変ってきたという傾向がある。
最近の傾向として、値段的にレンコンも非常に良い。収穫も手掘りでなく、機械もかなり開発されてきており、特に米を作るということはまずないと考えられる。レンコンでそのまま残るのか、客土してイモに替えていくのかということになると思う。ただ、今の状況では砂がとれない状況になってきており、今のままで行くと、レンコン田のまま残っていくのではないかと考えられる。
- ・ 特徴づける重要な産業(レンコン田)だと思うので、残ることを望みたい。その中でカワバタモロコが生きていけるような水路を守る、そのための地元の方との調整、合意形成が重要な課題となってくる。

(その他の意見等)

- ・ 段関付近では、ウォーターレタスなど、繁茂して環境を悪化させるような要因の外来生物もいる。ヘドロの原因になったり、直接生活環境など水辺の環境を悪化させるよ

うな外来種に対して、撤去する必要がある。難しいが検討していただきたい。あのよ
うなものがいると、全面を覆ってしまって、完全に光が通らなくなって、水の中に酸
素がなくなってしまう。そして、枯れてしまうとヘドロになる。どれだけ一所懸命護
岸などを配慮しても、全部駄目になってしまうという恐れがあるので、専門の方に聴
きながら考えていくべきではないかと思う。

- ・外来種対策というのは、動物、植物問わず、非常に大きな課題であると思う。農水本
省の方でマニュアルを作り、その中で外来種の問題を扱っているので、段関の場合も、
そういうことも配慮していただきたい。

5 閉会のあいさつ： 農地整備課長からあいさつ

6 閉 会